

二書

(刊行後)

第二節 船舶作戦の経過の概要
支那の要港に於ける船舶の輸送は大型船の各個

運航による輸送で、輸送能力は大に上った

(昭和十二年十月)

此の頃、杭州湾の上陸作戦、昭和十三年の

バックス作戦、同十四年一月の海南島、同十六年

四月の福州作戦、同年八月北部佛印上陸が

決行された。併し支那の要港の船舶輸送は、

敵の妨害がなかつたので、船舶輸送は極めて容易

であった。寧ろ揚子江作戦や珠江作戦までに

特異性があった。此の頃の船舶作戦は、主として

砲台司令部が主作であり、之に若干の

船舶を以て(古米獨工丁)を伴った

今迄戦争に於ても初期の作戦に於ては、主として

比島、ガバ、公事、比較的容易に作戦は実行された

大津、内航、去つて、コタハルの法、
(植念丸) (沈没)

沈没のあり、ハンタム、博の神州丸の損傷があった

今迄戦争
初期

併し此の頃の活動の主体は逐次攻撃場司令官

の色彩よりも船舶を駆逐する主体とする船舶団
に移って行った

中報

行戦の中期即ちカガリ作戦頃から比島上陸前

迄迄の間に於ては敵機 B-17 B-24 の攻撃 潜水艦の脅威

のため大型船舶は逐次に自衛を見よと訓った

電探兵器の威力よきものが深刻になつたのも

此の頃からであった

此の時期の移送は「ガ島の増強移送」 フォン島の

移送「ヒルマ」方面の移送が大きな向壁であった

次いで昭和十八年二月「ガ島撤退移送」 「ウエ」移送

が統つてからは「ハウオ」を基地とする「ニューギニア」

移送がなされた。此の移送は「ウエ」 「マタ」への移送で

汁濃短切揚拱作戦が強調せられた

月明を避けて砲撃時間を少くし 成よる多量の

軍需物資も揚陸するぬの工夫が続けられた

此の頃が海上補給作戦の好味であり是れも甚ん

だしたことにあり、而も思ふにまかせぬ移送であった

1023

1060

征伐の末期たる昭和十一年の十月の比高上陸
以後は比高の空入輸送が隆々としたが
バレー地味の甘藷屑と消之本船船の数のみ
増加する状況であった

台湾、沖縄の輸送も困難となり、よきより先の
船輸送も断絶するに及んで南方との交通は
遂に完全な遮断せられた

青島連陸船の大部分が日米交渉で消し、内地
主要船路は激烈な機雷投下によつて
極度の脅威せられた

朝鮮地味の輸送が船船輸送最良の均取より
船船の主力は二ノト洋加ル

音針丸、林田丸、整式般等機、林要降去、通信

揚揚部は主要防軍船船部隊の要員は二ノト

移外し
唯一の残存した船船大陸と日本本土とを繋ぐ
日中輸送が始まる
重丸の船船輸送的価値は一朝天ごとく

かたがたが、遠征艦隊から日本の護衛は大平洋が

の必要に迫られ

主作であつたが、~~各艦~~海運資材を轉用し、港灣施設を増設

先づ船船部隊を急遽轉用取用するに共した

東船や船舟が、^{日中海方面に前送し}佐渡、伏見へと新設材面^{伏木七尾 敦}

靡非^二之行つた

此の内に東京船船隊は小笠原へ轉送を報告し

（沖繩列島の）

海航轉送船は徳の島の特攻兵器の轉送も強行

した

航空用

併し此の次になると船は改正型等の劣等船

の多くを^も海軍も増加するよしからよと概算

投下に制肘未だに死物狂の轉送であつた

船はドラックも入れず、片足のみまづり、^{兵隊}四十二

の乗出者も活動すよ、意気込で、あと三月も

すれば大型船は動けなく、御上のは今の内だと

頼張つた

かくしてぬる間に遂に終戦に到つた

東洋船政 第二版 大東洋船政 今次戦争

大東洋船政の船舶準備

今次戦争の準備として大東洋船政の園が深く入り込んで

造船準備が進められたのは十一年夏季以降であった

船舶準備に因りて同様で同年十二月頃には造船

準備が完了したとして船舶製造の完了が

三月十日に由りて完了した

その内では船舶作戦の要する材料はなかつたが

因りて是等の準備事項は次の事項であった

船舶調査

陸軍準備部は船舶の現状の調査把握に

要する船舶中の船舶は計九〇隻で作戦の

要する船舶は計九〇隻で作戦の

船舶は計九〇隻で作戦の

船舶は計九〇隻で作戦の

船舶材料

船舶準備部は船舶一四〇隻に及ぶ船舶材料

材料の準備は人々の比に四一七一ト

一五〇トの準備は人々の比に四一七一ト

船舶の準備は人々の比に四一七一ト

船舶の準備は人々の比に四一七一ト

船舶の準備は人々の比に四一七一ト

3 燃料 給水の準備

南才化(島)の燃料給水は、(島)の南に於て

長途の航路に必要とする。船舶は内地又は遠く

地を航路しの上陸地を再行し、その船舶は

燃料と水の保有量に制限せらるる再が、島の

位置に帰還するよとよみ、このかた

この島は、この島に於て、(島)の南に

その中、(島)の南に、(島)の南に

この島は、(島)の南に、(島)の南に

この島は、(島)の南に、(島)の南に

パノ

西南島三座及び

高雄

廣東

カリン

燃料給水の準備は、(島)の南に、(島)の南に

大車等の於ても、船舶の給水、給水、切らぬは此の

この島は、(島)の南に、(島)の南に

船舶準備

船舶準備として、(島)の南に、(島)の南に

この島は、(島)の南に、(島)の南に

この島は、(島)の南に、(島)の南に

か東大なる事項になつた。當時優秀な船のみをも
二つと捕獲す。はるめかありとして一四渡以上の船艦
二四万の甲一丁作戦(まま作戦)に供用す。
若干のものに捕獲が甘あつた。二つに必要を
船の所要量二〇〇隻が兵站総司令部で
大なる問題であつた

海軍水陸協力の準備

南方作戦に必要を海軍水陸協力の海軍水陸部
は運送して多量に準備せられた
特に上陸予想地は船橋艦隊の船長等と
集めて口述によつて資料を集められた

(一) 特殊訓練 海軍等

昭和十一年一月下旬より二月下旬まで(鈴木)
一四艘十隻の艦隊ありて、軍務通信長官の
統制下、鹿児島附近の上陸作戦を準備し、
かまらわらひ、早稲田の各軍師団の及砲台司令部
候補者が動員せられた

二の波で砲台司令部と特立し兵隊長(丁)

に所属すよとちの、かあつて大分海軍があつた

19 か、二ノ軍が海軍思想の一端であつたかとも無味な

（から四月に就いて）

又、同年三月末から四月末、総務の長、警備部
か北九州に於て実施せられた

大規模な陸軍の協同演習であった

この演習の狙いは相対的優勢を敵の航空及
海上勢力を排除しつゝ、艦隊航行を実施して

敵の主要航空基地を連日奪取し、主力の上陸と
艦隊航行とを断行し、依て作戦の遂行をた

上陸軍の主力部隊は自動貨車、自陣車と
多数の砲隊を率へられた

技術的には迅速なる戦車及自動貨車の揚陸が
大きな問題であった

3. この演習の外に特別任務を帯びた部隊や

実施地帯及び海上訓練が盛んに行はれた

例へば、遠征隊、海岸の自衛隊、戦車の揚陸

作業、水陸降揚物の破壊、上陸直後の砲撃

場の実演等がそれである

もう一つ特殊な問題として、軍事の上陸作戦の研究

がなされた。これは敵の空軍の対策が最も大きい

点と見做して、海空軍の連携、艦隊を多量に

運用して、先遣隊を上陸せしめんとする狙いで

あった。この演習は海上と陸上から観望を

20 陸岸並に推進して、結果は部隊を先づ上陸せしめよ

カニ 船舶転送司の準備

(一) 船舶転送司の準備は大船の積下を基として
この準備を進めた

船材として多量の本材を蒐集すること

氏留の場を設き廻つて諸所して大、カニ郵船を
整備すること、少い船艘を以て集積中の石炭

を集積転送すること、海軍訓練に充てしめて

研究を進め、このまま多大の困難があつたが、

日韓に対して一途に進むこととした。

海軍訓練の準備として、給出船、給水船、給食船、海軍訓練艦、給油船、之を作船、

タンカーの準備、約二〇万噸の船舶冷凍船の準備、海軍も準備

着々進んで行った

移送船は如何にして長途の航海に堪え得べきかが

大きな問題であつた。このためには石炭を多量に積む必要

をバラスト代りにすること、水を多量に保存

すゝぬに、タイプタンクに積むとかいうくのもの

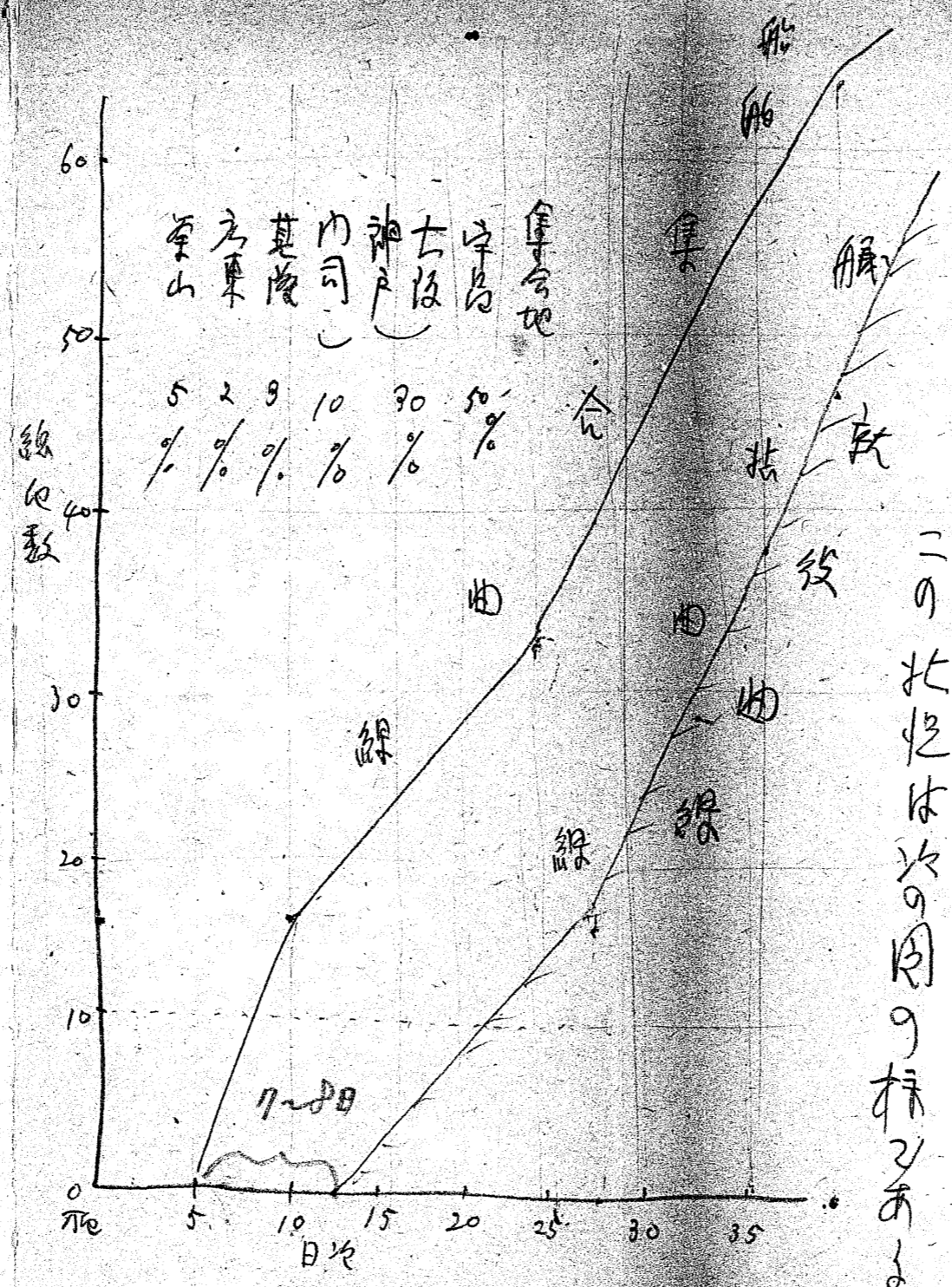
が採用された

(一) 船舶準備に因する諸項

船舶の整備が完了すると各船舶は逐次に集令集令は
 烟航せしめて船舶準備が進めらるる。

集令した船舶は概ね其の諸準備を行ふ
 今次戦争の概ねは宇島と主として大坂内司
 基隆、宇東、宇山集令であった。

二の北はは次の図の様である。



新整備の船舶一三五万は集令地の船舶準備能力
 特に航法能力に依りて各如く烟航を命せらるるもの
 五日目頃から集令を開始し一日百隻位の速さで
 烟航して来る。

集令が完了するから航法能力をえじ就役し得る
 一船舶に於ての日次であった。

翌日 検査
消毒、ハースト搭載

オ二日

オ三日

オ四日

オ五日

船装
兵装

此の間に銃水銃装も行か

オ六日

船内積材搭載

オ七日

準備

オ八日

（兵装）

斯くの如く集めて別者より船装、消毒、ハースト搭載
銃水銃装、船内積材の搭載、準備を加へし
通常一七日か八日位を要す。

船装能力は各地に多少異なるが一日四万包の積入
船装の余裕は前回の計画より多くと準備は

一日の積込能力二万包を要するわけである

（船装の軍用直轄式や

この他に船装の令書や、暗号の書や、河川水路

誌の資料等も入換船装の多忙を極めた

併し此等は予定の如く実施せられて、今次戦争に
突入した

本に同じく米軍の機材にこの大船の船を同様に燃焼して表裏
焼く事とした

(四) 十月末、船舶移送司令官は所定の幕僚を従って
取戻方型旅客材に搭乗して博多留洋場と生見して
本線の船舶集會場を視察しつゝ、作戦指導を
行った

神川丸

海南島の三曲の海上の25Aの軍司令官を討つた
船中自給用の物大袋が落ちていた
船中の丸の速度が優速船団に入ると航行
出来ないとあつて、軍参謀長以下機嫌が
悪かった、船舶移送司令官は直ぐ代船を海軍へ
呼びに行き、大船の丸を調査して
向合つた

船舶移送司令官は直ぐ代船を海軍へ
呼びに行き、大船の丸を調査して
向合つた
船舶の速度調査は聴取し、佐々木、あつかい
直接船長、機長に今うて確認する必要があるよ
ら東、カウラン、博多、西を事と視察して、十一月三日
に西をに戦艦司令官行を開設した

(二) 船舶移送司令官は南方総軍司令官の区画の下
に依つて、南方軍の戦地域の船舶移送を
指揮し、この下のよ、船舶移送司令官は一方又
参謀総長の指揮下に依つて、船舶全船の
指揮ト化して、又陸軍軍輸部として

船舶移送司令官は南方総軍司令官の区画の下
に依つて、南方軍の戦地域の船舶移送を
指揮し、この下のよ、船舶移送司令官は一方又
参謀総長の指揮下に依つて、船舶全船の
指揮ト化して、又陸軍軍輸部として

不具合があつたりして客船の調査が出来ない

海運治民の整備、船舶の整備備蓄の軍
 政的軍政に備しては陸軍大臣から海軍に引
 いた、仲の複雑なる性格であつて、南方に推
 するニともいふべく、向敷があつた
 南方総軍とは、区役などは生ぬるから、且
 指揮をせよ、強し、この強、要、亦もあつたが、
 大本營として、（國軍、支那海軍、南方海軍）兵力核動、兵站補給は自ら
 直接指揮するもの、要するもの、南方総軍は
 國軍の左衛門隊としての一翼隊であるとの見地
 で、（南方海軍の）指揮下に入るとの恐れがあつた

西首に於ける船舶搬送の「人リ」（人リ）と南方総軍
 の関係は、實に緊密なる連絡を保持し
 海軍指揮下になつたものも、同然の様に仕事が行はれた

西首に於ける船舶搬送の「人リ」（船舶）と南方
 軍政区域の北段は明確に把握出来たが
 岸島の於ける諸事、常に同じとは、的確に
 把握が把握し難かつた

下の「人リ」（岸島の搬送）の大本營に直接は
 の「人リ」（岸島の搬送）も、点検し、米、渡、遮断をせよと
 する、伝、搬、送の準備は、岸島の行はれたら

宇島に首脳部の帰還()を必要とする状態も
起すに至る

昭和十七年十一月は船艦を以て今までは宇島に帰還
した

1076

(丙) 西直に於ける作戦指導

西直に於ける船艦作戦指導は緒戦の勝利に
伴って極めて順調に行はれた

船艦作戦の指導は極めて広範囲に分散行動する
船艦部隊及個々の船艦に的確に指揮するに
通信手段とこのことが極めて重要なものであつた

この通信施設は()と困難もあつたが在任に於て
都会より行はれた

船艦からの無線は封鎖された。喉潰れに類した結
核のみ放送電報も受信した

軍の上陸の際、淡路丸より「コックチンチンの無線が
入った。船艦隊より攻撃を受け沈没した」と
この船艦隊の消息は西直軍司令部には知られなかつた

同攻痛な気持ちになつた

こんなこともあつた。英軍艦隊の有名な「ホルムス
及びペルシス、オブ、ウェール」が「シンゴラ」上陸地を

攻撃に以上しつゝありとの情報が入つた。當時「シンゴラ」
沖にはまだ数十隻の大型輸送船が鋭意揚陸

中であつた。直接援護の海軍艦隊は微弱である
が、⁹ 突入されたら素手の手玉の如くは

もろのよ、緊急電報が南才總軍から夜半二時
 頃かかこ来た。如何に速く置すしや、當時主役
 多摩は直に司令官に報告し、緊急放送電報
 を各船に傳つて、唯「バンコック」方面に北上退
 避すべしと命令した。同様の夜のはじめ²⁵軍も打電
 された。幸にも翌日夜のはじめ²⁵船は難免せずし
 事なきを得たのであった。

④メコン河に遊揚中の十数隻の大型船の上陸地。メコン
 河の決断を生じた場合の上陸地集り多くの
 対策が講じられた。

⑤西貢に於てボクネオ方面の川には隊の作戦。比島
 上陸作戦、夜に「ジャバ」上陸作戦手に伴ふ
 船舶作戦指導が行はれた。

船舶作戦指導は各軍に於ける上陸作戦に参加
 し、連絡の節めた。

⑥「ジャバ」方面、他の揚子江に開始せしむる順調に
 進んだ。

⑦南才資源の内地運送移送に伴ふ特別班と
 ちのものが各団隊会社から選出されて船舶移送
 司令官の所屬せられた。

1077

